



Smiles for the Public

2022年(令和4)3月期 第1四半期説明資料



TOA株式会社

将来の見通しについて

- 当社が開示する情報の中には将来の見通しに関する事項が含まれている場合がありますが、発表時点での情報に基づく予測であり、経済情勢等の変化によって大きく異なる結果となる場合があります。当社としましては、将来見通しの精度を高めるための努力をするとともに、見通しの変化が生じる場合には適宜開示いたします。
- 当社ホームページは投資勧誘を目的にしたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断においておこなわれるようお願いいたします。
- 当情報の正確さや掲載内容につきましては細心の注意を払っておりますが、なんらそれらの正確性を保証し、または責任を負うものではありませんのでご了承ください。

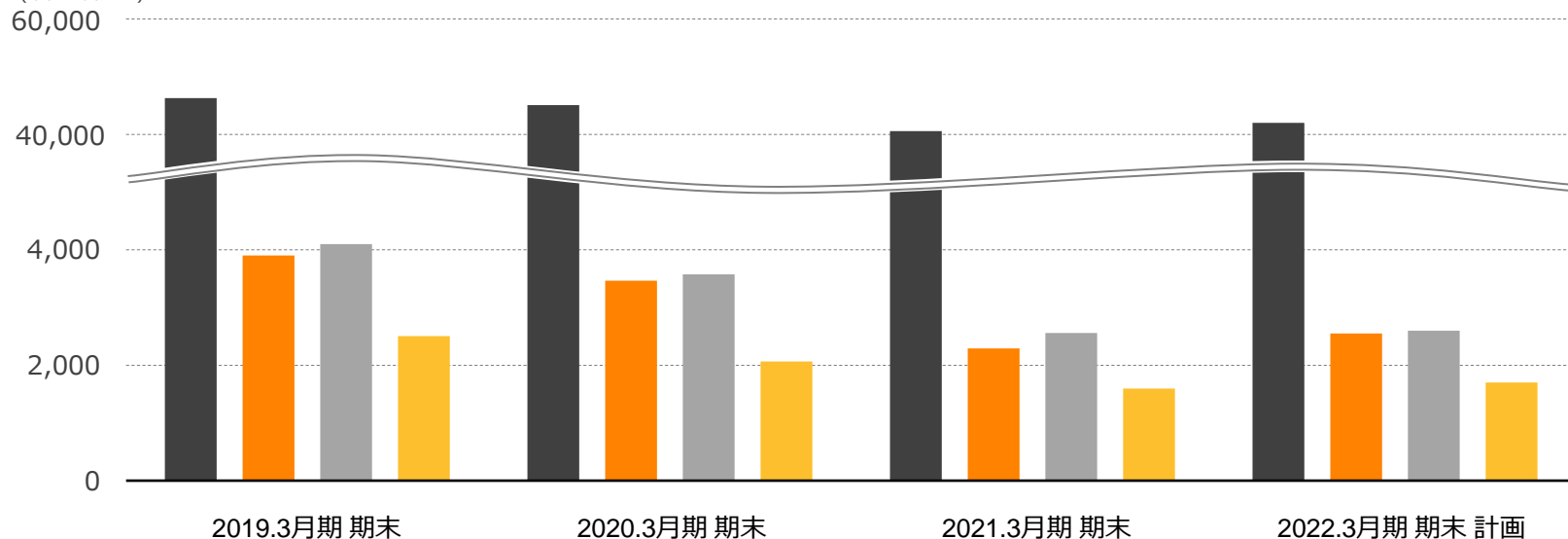
2022年3月期 第1四半期決算業績

2022年3月期 第1四半期業績の概況報告

- 第1四半期累計の業績は、減収増益(赤字幅縮小)となった。期初の想定を売上、利益とも上回る。
- 日本セグメントでは、前期苦戦した教育市場や商業施設向けの売上は伸長したものの、鉄道車両向けの売上が減少し、減収減益となった。
- 海外では、新型コロナウイルス感染症による経済影響に地域差が出ている。アジア・パシフィックセグメントは、ベトナム、マレーシアが堅調に推移したものの、インドネシア、タイでコロナ禍の影響が続き、セグメント全体で減収増益となる。欧州・中東・アフリカセグメント、アメリカセグメントにおいては、新型コロナウイルス感染症拡大も峠を越え、大型案件の納入も進み、増収増益となる。中国・東アジアセグメントでは、台湾が前期に引き続き堅調、中国においても大型案件を受注するなど、増収増益となった。
- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済の動向が依然として厳しい状況であるが、新しい生活様式に合わせたビジネスの仕組み、業務プロセスの見直しを継続して行い、音響・映像それぞれに対し新商品の投入を継続する。
- なお、今期の見込みについて変更はなく、引き続き計画数値の達成をめざす

2022年3月期 数値計画（連結）

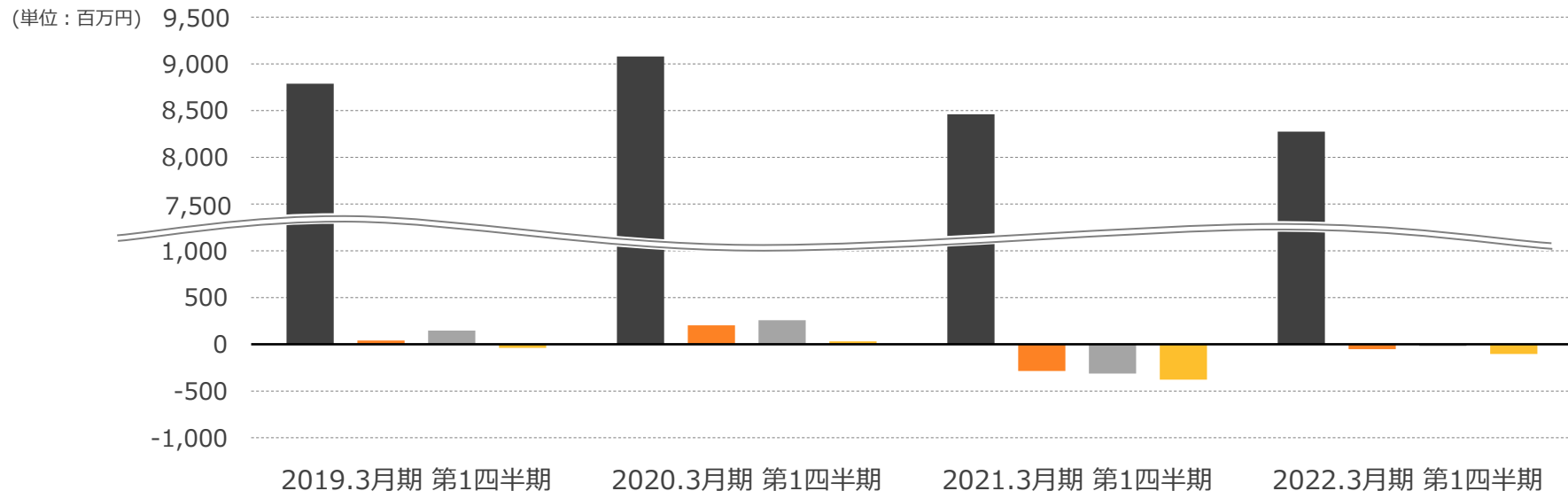
(単位：百万円)



■ 売上高	46,338	45,068	40,575	42,000
■ 営業利益	3,903	3,465	2,293	2,550
■ 経常利益	4,099	3,577	2,558	2,600
■ 最終利益	2,504	2,065	1,596	1,700

(注) 親会社株主に帰属する当期純利益

2022年3月期 第1四半期の業績（連結）



	2019.3月期 第1四半期	2020.3月期 第1四半期	2021.3月期 第1四半期	2022.3月期 第1四半期
■ 売上高	8,788	9,080	8,460	8,275 ▲2.2%
■ 営業利益	40	203	-286	▲52 —%
■ 経常利益	146	257	-313	▲19 —%
■ 最終利益 (注)	-38	31	-378	▲104 —%

(注) 親会社株主に帰属する四半期純利益

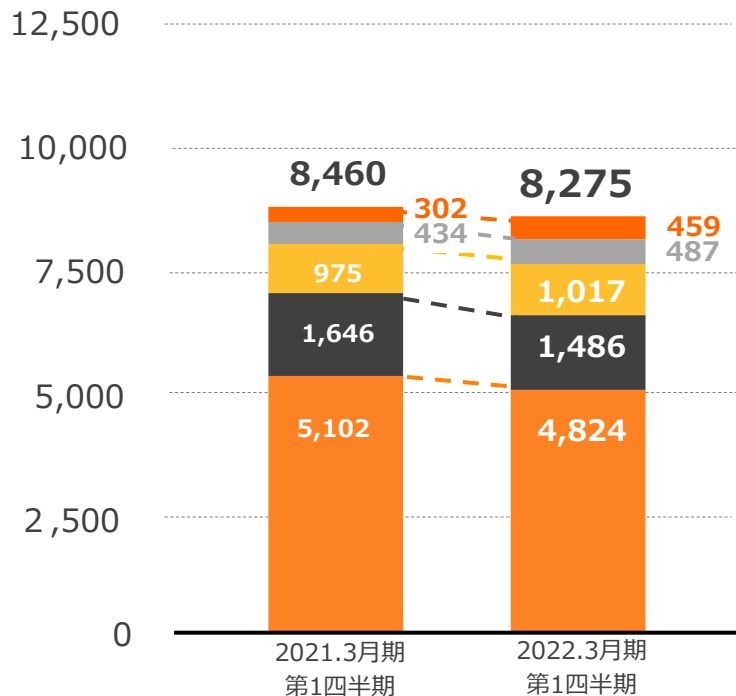
※%表示は前年比増減率

セグメント別実績並びに分野別実績

セグメント別 売上の推移(連結)

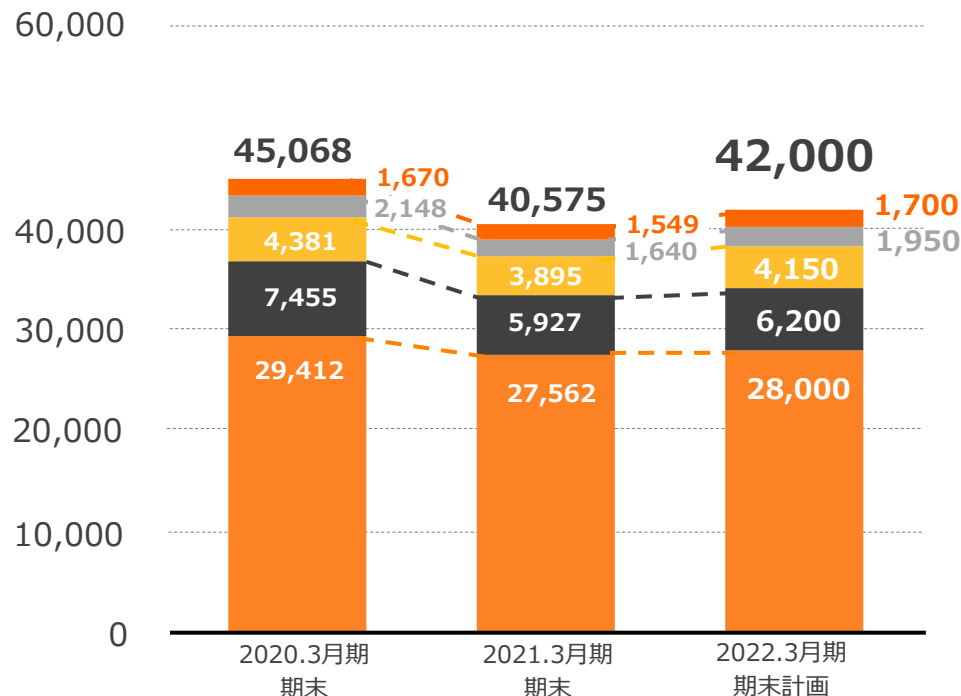
(単位：百万円)

第1四半期 実績



(単位：百万円)

年間数値計画



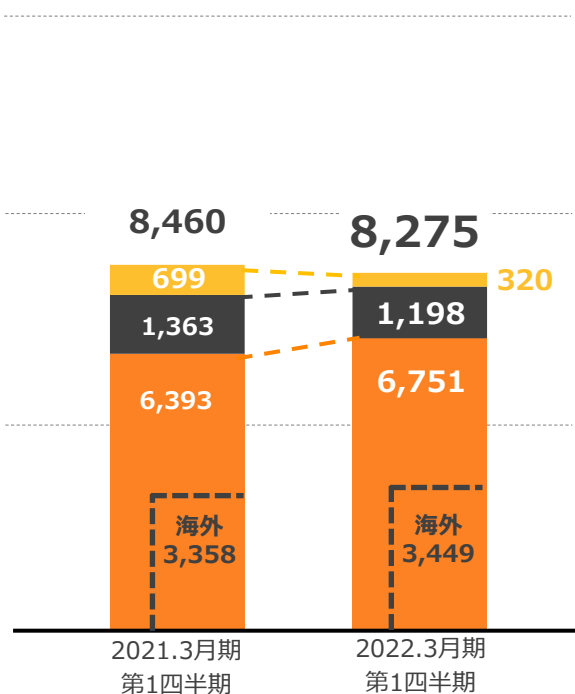
■ 日本
 ■ アジア・パシフィック
 ■ 欧州・中東・アフリカ
 ■ アメリカ
 ■ 中国・東アジア

分野別 売上の推移

(単位：百万円)
15,000

第1四半期 実績

10,000
5,000
0

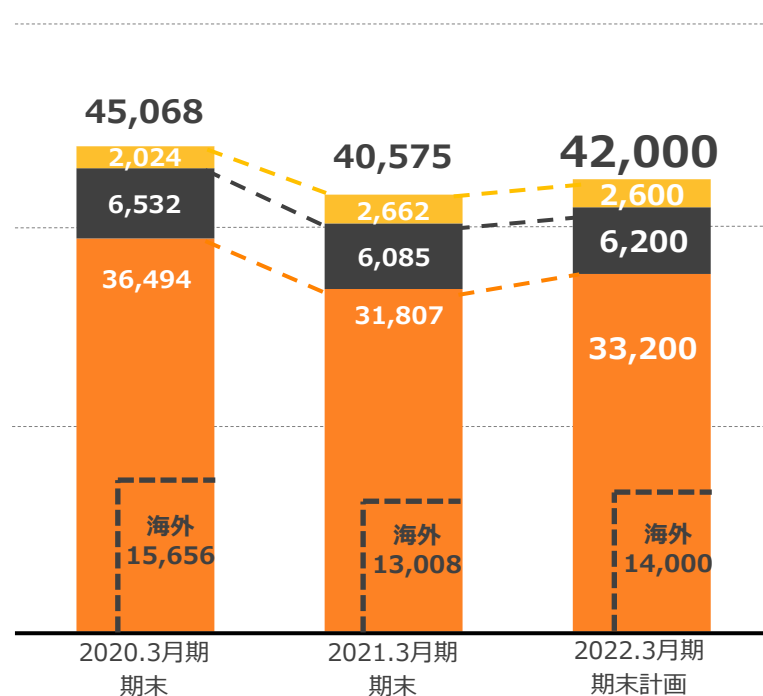


■ 音響 ■ 映像 ■ 鉄道車両

(単位：百万円)
60,000

年間数値計画

40,000
20,000
0



研究開発費・設備投資と減価償却費の推移

(単位：百万円)

2021.3月期
第1四半期

2022.3月期
第1四半期

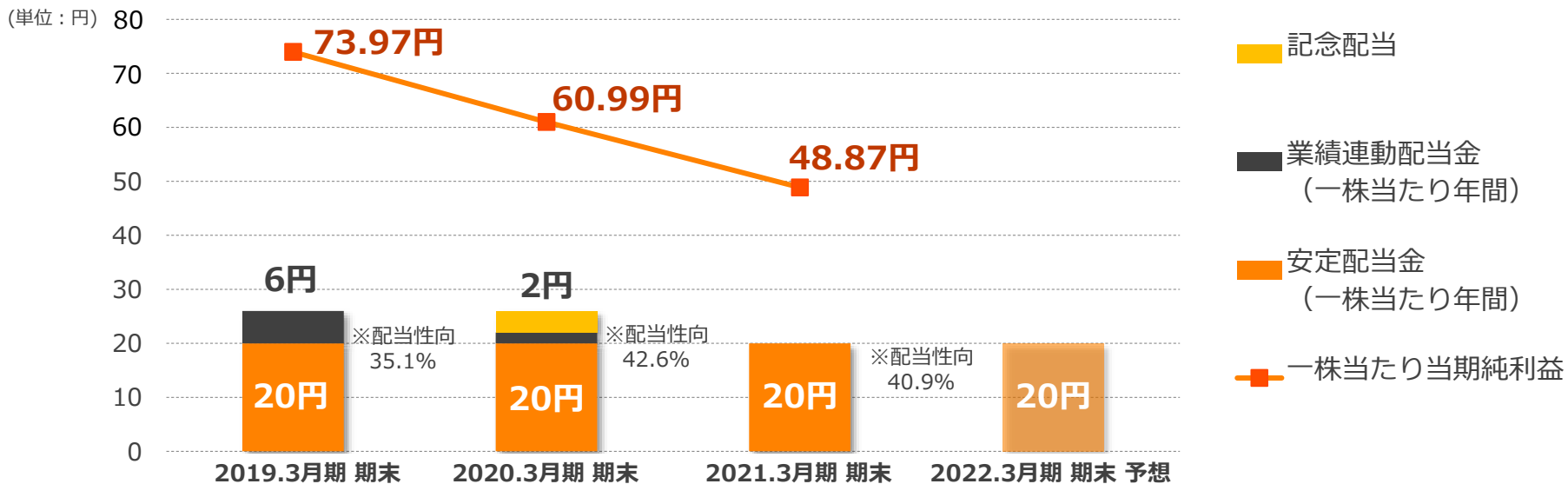
2022.3月期
期末計画

研究開発費	666	619	3,076
設備投資	351	198	1,522
減価償却費	351	345	1,475



2022年3月期 予想配当

安定配当20円を維持



配当については、以下の事項を総合的に勘案して決定する方針

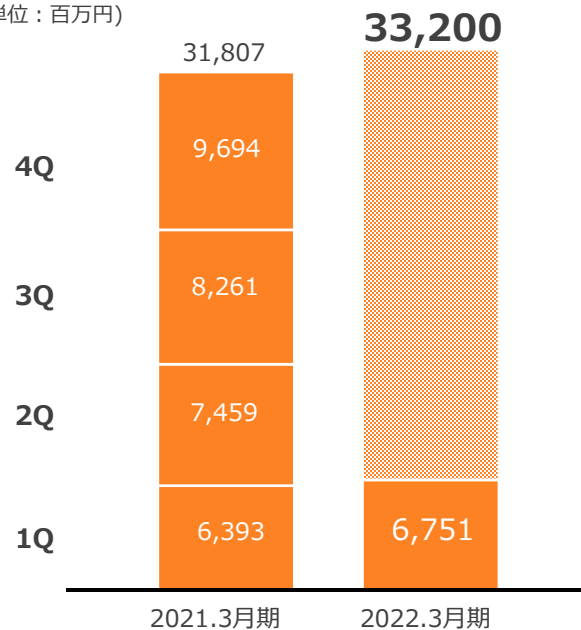
- 年間 20 円 (中間配当 10 円、期末配当 10 円) の配当を維持。
- 最低額を20円/株とした業績連動配当 (35%を目安) の実施。
- 持続的な成長を可能とする内部留保とのバランスを勘案。

補足資料

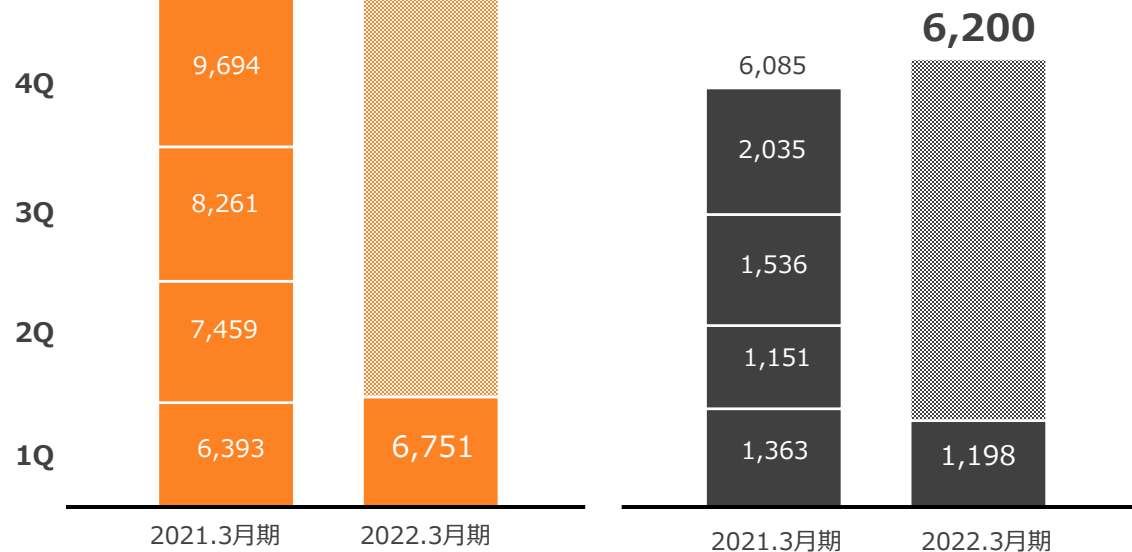
四半期別 売上の推移(分野別)

音響

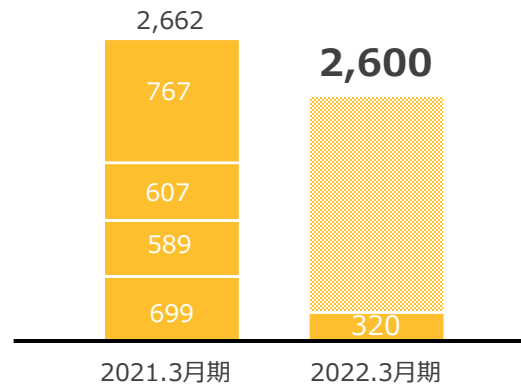
(単位：百万円)










映像



鉄道車両



国内市場別トピックス

市場	2022年3月期 第1四半期	トピックス
教育		小中学校での新築工事、改修工事などにより、大きく売り上げを伸ばす 夏休み案件の引き合いも多く発生
商業施設		大型ショッピングモールやスーパーマーケットなどに戻りが見える 新しい生活様式に適応した運営形態など、提案機会も増加
工場		コロナ禍による影響が少なかった前期に比べ、減少に転じる 生産性向上を図るための需要に向け、提案を強化
オフィスビル		コロナによる需要の減少が今期も続く
病院		提案型営業の強化により、リニューアル案件を獲得継続
減災防災		前期の過去最高売上からは減少に転じるが、計画通り 愛知県、奈良県などで大型案件を受注納品
交通インフラ		鉄道市場、空港市場にて戻りが見える 遠隔監視システムの導入など新しい運営形態の提案を強化

- 前期に引き続き、官公庁需要が伸長。

※上記は前年比、国内単体実績を参考に記載しております。

